

教育シンポジウム 1：魅力的な大学院教育ならびに院修了後教育

国立大学大学院全体としての現状と課題 — 国臨教白書 —

三 浦 昌 人*

要 旨 国立大学臨床検査技師教育協議会(国臨教)は、所属する全国 21 校の教員と学生に対する年 1 回のアンケート調査を国臨教白書としてまとめている。そのよると、教員数は 15 人程度であり、5 年以上の実務経験を有する臨床検査技師は 2.2 人であった。学部学生は各校年 4 題程度、修士課程の学生は年 15 題程度を国内学会で発表していた。博士後期課程の学生は各校 3 編程度の英文論文の筆頭著者であり、年 8 題程度を国内学会で、年 4 題程度を国際学会で発表していた。学生の進路に関しては、学部学生の約半数が進学し、修士課程の学生の約半数が企業に就職していた。博士後期課程の学生の 60%弱が大学などの研究機関に就職し、約 20%が病院に就職していた。国立大学の卒業生は、病院・企業・研究機関などさまざまな分野へとすすんでおり、養成校には、いずれの分野においても世界の第一線で活躍していけるような人材の育成と研究環境の整備が求められている。

キーワード 教員数、学生の実績、学生の進路

国立大学臨床検査技師教育協議会(国臨教)は臨床検査技師養成課程を有する全国の国立大学 21 校から構成されており、1990 年 4 月に設立されていますので、既に 30 年以上の歴史を有しています。年数回の頻度で総会を開いており、直近では令和 6 年 5 月 31 日に琉球大学の会長校の下で沖縄の那覇市で開催されました。7 大学が対面で、14 大学がオンラインで出席し、国立大学の臨床検査技師養成校における現状と課題に関して意見を交わしました。また、国臨教では昨年ホームページを立ち上げました。「国臨教」と入力するとホームページが立ち上がり、大学院を目指す学生や高校生などを対象とした各大学の大学院教育プログラムに関する情報などを閲覧することができます。国臨教白書は国臨教に所属する全国 21 校を対象とした教員と学生などに関する年 1 回のアン

ケート調査をまとめたものです。以下に、2023 年度に関するアンケート結果のまとめを示します。まずは教員に関してです。教員数は平均して 15 人程度であり、内訳は医師が約 4 人、臨床検査技師が約 5 人でした。臨床検査技師の内、5 年以上の実務経験を有するものは 2.2 人であり、3 人には達していませんでした。国立大学の場合は同じ敷地内に大学病院があり、東北大学の場合も専門外の講義や実習を院内の医師や検査技師に依頼していますので、5 年以上の実務経験を有する検査技師教員の不足による不都合を今まで感じたことはありません。次に学部学生に関してです。学部学生は平均して 150 人弱が在籍しており、1 学年 40 人弱の学生が在籍していました。学部学生には留学生の在籍はほとんどありませんでした。臨地実習先としては、特定機能病院である大

* 東北大学大学院医学系研究科臨床生理検査学分野 masahito.miura.d8@tohoku.ac.jp

学病院に加えて、一般病院が2施設程度ありました。学部学生の研究実績としては、1つの研究室で平均して5人弱の学生を研究指導しており、年4題程度の国内学会での発表を行っていました。学部学生では筆頭著者論文や国際学会での発表は僅かでした。修士課程の学生に関してです。修士課程には平均して20人程度の学生が在籍していますが、社会人学生と留学生の在籍は僅かでした。修士課程の学生の実績ですが、各校平均して平均して年15題程度国内学会で発表していますが、英文論文の筆頭著者や国際学会での発表は僅かでした。博士後期課程の学生に関してです。博士後期課程には平均して7人程度の学生が在籍しており、その約半数の3～4人が社会人学生、2人程度が留学生でした。博士後期課程の学生は各校平均して平均して3編程度の英文論文の筆頭著者であり、国内学会での発表数は約8題、国際学会での発表数は約4題でした。学生の進路に関してです。学部学生の約半数が進学し、残りの学生は病院に就職していました。理系の学部では医学部、歯学部、薬学部がもともと6年制であり、工学部、理学部、農学部のほとんどの学生が修士課程に進学しているのが現状です。今後、検査の学生も他学部と同様に修士課程への進学者が増えて

いくのかもしれませんが。修士の学生の進路です。修士課程の学生の約半数が企業に就職していました。理系の学生のほとんどが修士課程を卒業してから企業に就職しているという現状を踏まえると、企業側も修士課程を卒業した学生を採用するというルートができていくのかもしれませんが。その他は、病院就職が約30%、進学が約15%という結果でした。博士後期課程の学生の進路です。60%弱の学生が大学などの研究機関に就職し、約20%が病院就職でした。ここで気になるのが、約20%の学生が進路不明という事です。ただの情報不足の可能性もありますが、希望する研究機関に就職できなかったために不明になっていることも考えられます。博士後期課程の学生の場合、卒業時には早くても27歳になっていますので、就職先の選択肢が狭くなっているのかもしれませんが。

近年、日本の研究力低下が問題になっており、国立大学には研究力アップと国際化が求められています。前述のような現状を踏まえて、臨床検査技師養成校である国立大学には、以下のような課題があると個人的には考えます。1)大学院生と留学生を増やすこと、2)英文論文数と国際学会での発表数を増やすこと、3)病院・企業・研究機関で働ける人材を育成すること、4)博士課程の学生の

中区分58：社会医学、看護学およびその関連分野

小区分	
58010	医療管理学および医療系社会学関連
58020	衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含む
58030	衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含まない
58040	法医学関連
58050	基礎看護学関連
58060	臨床看護学関連
58070	生涯発達看護学関連
58080	高齢者看護学および地域看護学関連

中区分59：スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野

小区分	
59010	リハビリテーション科学関連
59020	スポーツ科学関連

図1 科学研究費助成事業からの抜粋

就職先を確保すること、5)検査技師が研究費を取得しやすい環境にすることです。ここで、図1に科学研究費助成事業からの抜粋を示します。この中区分には「社会医学、看護学およびその関連分野」という項目があり、その中には看護学関連の4つの小区分が認められます。更に、次の「リハビリテーション科学関連」という小区分の中には「リハビリテーション看護学」という記述がみられます。このように看護の分野では長い年月をかけて「看護学」という学問を確立してきたことがわかります。今後、臨床検査技師養成校の卒業生が

安心して研究を続けていくためには、「検査学」という学問を構築し、自立して研究を続けていけるような環境を作っていくことが急務と考えます。

最後に、国立大学の卒業生は、病院・企業・研究機関などさまざまな分野へとすすんでおり、その進路は今後ますます多様化していくものと思います。そのため養成校には、臨床の現場ばかりではなく、企業や研究機関などにおいても世界の第一線で活躍していけるような人材の育成と研究環境の整備に尽力することが求められていると思います。